

IGAS2015 プレスカンファレンス & インタビュー

9月11日から16日までの6日間にわたって開催されたIGAS2015では、出展企業や団体が記者発表会やプレゼンテーションを行った。また、海外メーカーから責任者が数多く来日した。弊誌では、IGAS会期中に行われた記者会見やインタビューを掲載する。

Interview

in IGAS 2015

有功社シトー貿易

谷口有三社長と
同社取引先の海外メーカー責任者に
インタビュー

■ 有功社シトー貿易(株) (谷口有三社長、本社=東京・北区)は9月11日から16日まで開催のIGAS2015に出展したが、期間中、同社取引先の海外メーカー責任者が来日した。米国JBマシナリー社の北米販売部長デブ・バージェス氏、米国フレキシオン・コンセプツ社のアジア・キーアカウント・マネージャーのステイブ・カオ氏、スペインのBOIX社については谷口有三氏にインタビューした。

IRドライヤーと UV硬化システム

米JB Machinery社
Dave Burgess氏



JBマシナリー社は米国コネチカット州に本社を置き、フレキシオン印刷機用ドライヤーシステムなどを製造販売する段ボール周辺機器メーカー。「温風ドライヤーに比べ早く乾燥でき、消費電力が少ない」と言われるJBドライヤーは、世界で1500台以上の導入実績がある。有功社シトー貿易は、JBマシナリー社とのあいだで日本国内の総代理店契約を結んでいる。バージェス氏は語る。

「当社はフレキシオン印刷に関しては、世界で最初に赤外線ドライヤーをはじめUV硬化システムを開発した会社。製造工程における特許も多数を保有して

る。現在、世界54カ国に輸出、1500台以上が世界の段ボール工場で稼働している」

「当社製品は段ボール用のフレキシオン印刷分野に特化している。ナローウェブのフレキシオン印刷については、この専門メーカー(ゼリック・ウェブ)を数年前に買収し、現在は事業部として事業展開している」

「段ボール用のIRドライヤーメーカーの競合会社は欧州に数社、アメリカに1社あるが、当社は世界のほとんどの段ボール機械メーカーとコラボレートして利用されている。段ボールの美粧化傾向が、世界的に広まった背景として、米国では店舗に多くの販売スタッフを置かず、一般消費者は段ボール箱に入ったままで商品を購入する形態が多いことが指摘できる。ウォールマート、コストコなどを筆頭に、お客様が商品を



JB赤外線ドライヤー



ケース単位で購入するため、一般的な個装箱（紙器）と同じようなアピール度が必要。たとえば米国の大型店舗では、ワインの種類も100種類以上が陳列されており、箱のデザインが綺麗であればあるほど、中身製品も良質なものと印象がアピールできる」

実際に美粧印刷された段ボール箱を見せてくれた。「まとめ買い、輸送にも便利である。青果物でも1色、2色より多色印刷してあったものが断然有利であり、オフセット印刷に比べ、近くで見れば劣るかもしれないが、やや離れた位置からのお客様には美粧印刷は効果絶大といえる。7色の印刷後に型抜きをして、ニス加工も施すことができる（1.パス）。当社のIRドライヤーは、印刷されている部分のみを乾燥させることができる。また大多数のお客様が、印刷幅の50%しか使用しておらず、消費電力も少なくて済み、機械自身のダメッジも少なくて済む。近赤外線による効果と出入口での熱風乾燥により、インキのなかの水分を蒸発させることができる。オンオフが即座にチェンジでき、メンテナンスも容易にできるほか、操作も簡単で、機械サイズに合わせ、IRドライヤーを用意している」

「JB赤外線ドライヤーはカセット方式を採用、乾燥ゾーンを選択とランプ出力のコントロールを可能にしている。特殊防護ガラスとガイドバーによって、搬送されるシートそのものやシート片から赤外線ランプを保護する。こうしたドライヤーの特長を活かし、日本市場において美粧段ボール生産体制の確立が、大手ダンボールメーカーと差別化をはかるための有効な方法と考えられる」



段ボール用ドクターブレード

米 FlexoConcepts 社
Steve Kao 氏

フレクソ・コンセプト社は、米国マサチューセッツ州プリモス市に所在する段ボール印刷機用のドクターブレードを柱とする

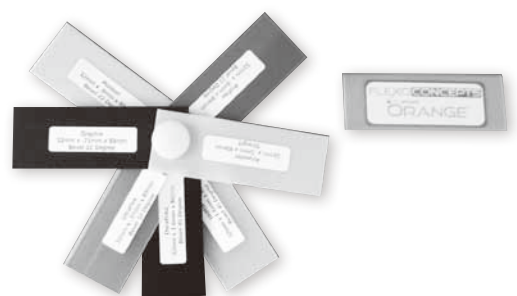
る資材メーカー。全世界において、フレクソ印刷・フィルム・ラミネート・コーティング加工業界と幅広く導入されており、とくに段ボール市場でのシェアは50%以上を誇る。カオ氏は語る。

「当社は1989年創業の会社であり、フレクソ印刷用ドクターブレードの開発を柱に事業展開してきた。当初は機械メーカーのWARD社とコラボレートしていたが、その後自社でブレードを研究・開発してきた。もともと段ボール印刷向けに始めたが、現在はラミネートフィルム、フォイル、さらにナローウェブのドクターブレードも提供している。現在もつとも使われているのが、ORANGEで、電気自動車、モバイルのバッテリー内のフィルム層をラミネートするときにも使用されている」

「当社のブレードはアメリカ、南米、欧州ではドイツ、フランス、イギリス、アジアでは中国、韓国、台湾などで多く使用されている。段ボール印刷機で適合するチャンバーステムを搭載したマシンであれば、どのメーカーのマシンにも使用可能。ステンレス製のブレードと比べ、当社のブレードは油分を含んだ樹脂製であるため、摩耗が少なく、寿命が長い。平均的

にはおよそ4倍長持ちする。たとえばステンレス製のブレードの交換時期が1週間程度なら、当社ブレードは1カ月での交換となる（デュラポイントの場合）。初期費用は一般的にはステンレス製の方が安いですが、使用時間を計算すると、樹脂製の方がコストパフォーマンスが得られる。またステンレス製ブレードは金属のため、極小のサビが発生、アニロックスローラには、トラブル発生の要因のひとつにもなる」

「段ボール業界でポピュラーなブレードは次世代UHMWで、60〜70%のお客様にご愛用いただいている。さらに長期使用のタイプは黒色のブレードを利用いただいている。価格帯は



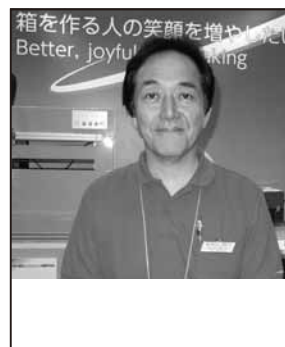
FlexoConcepts 社のドクターブレード



スペイン BOIX 社マシンによる
美粧段ボールトレイ

やや高めの設定になっている。テフロンを素材としたブレードは350線以上の印刷に最適であり、700線以上のものはガラス分を含有したものが最適だ」

「当社のブレードは20種類ほどあるが、ポピュラーなものは8種類ほどになる。ただ当社はお客様で使用している機械の印刷サイズを含め、仕様とアプリケーションを聞いたうえで、その会社に最適なブレードを選択、導入前に無償でサンプル提供している。お客様に納得いただいてから導入するので、多くのお客様から信頼性を確保している。研究開発も毎年すすめている。たとえばMicroTip、このブレードは接触部分をなるべく細く長くしたタイプのブランド名で、0・3×0・1mmという先端加工が施されている」



美粧段ボール
トレイ用製函機
Q-700
スペイン BOIX 社

谷口有三氏

BOIX社はスペインに本社を置く、美粧段ボールトレイ用の製函機メーカー。40年以上の歴史を持ち、販売実績は7000台以上に達する。同社のジュン・イー氏が来日予定であったが、急きよ来日できなくなったため、有功社シトー貿易の谷口有三チーフディレクターに聞いた。

「日本の段ボール箱と海外の段ボール箱とを比較すると、もつとも異なるのが美粧化という点であり、たとえば農作物の段ボール箱を見ても、日本のものは2色印刷で『トマト』『りんご』という表記のみだが、海外のものは綺麗なデザインがほ

どこされておき、お客様の目をいかに引き付けるかというコンセプトを明確に表現している」

「また海外の段ボール箱は、比較的2層3層のものが多く、これは輸出を前提とし、長距離輸送対応としたもの。構造的にも積み重ねに耐えうる設計となっている。耐水加工も十分施されている。朝市などでの店頭販売の際、急な雨にも対応できる。もちろん日本の青果物段ボール箱は多層構造のものもかなり多いが、印刷に関しては欧米をはじめ海外では大半が美粧印刷だ。店頭販売にも、トレイ形状の段ボール箱を積み重ねてディスプレイできる」

「日本の場合、農作物生産者はJAから段ボール箱を買って、箱詰めをしてJAに持ち込むという流れが一般的であり、段メーカーはJA指定段ボール箱を納めているので、美粧化が日本で浸透しにくい背景のひとつ。TPP交渉が進められているが、『よいものを生産して海外に輸出したい』という農産物生産者は、手塩にかけた商品を多色印刷でアピールしたいはず。世界のなかで、日本の農産物のシェアはわずか1・8%、33億米ドルほどで、やる気のある農家では輸出に目を向けているところも多く散見され

る」

「こうした状況のなか、有功社シトー貿易では、このスペインの段ボールトレイ生産機メーカーと数年ほど前に販売代理店契約を結び、準備を進めている。BOIX社のマシンは数多くのラインナップがあるが、当社では機種を限定して取り扱っている。組立箱自動製箱機であり、メインの売り先は農家の選果場を対象としている。現在、日本のほとんどの選果場ではJAから購入したフラットの状態で段ボールを組立てるのに、手作業でおこなっている。しかも高齢者が従事しているのが実態であり、これを自動で行うことで作業環境が大きく改善されると思う。まだ日本市場に本格的販売はしていないが、TPP合意後に日本産青果物を輸出する農家を普及させたい。またこのマシンの組立箱のサイズが欧州および北米のパレットの規格に呼応している。高さは自由に調整できるので、即輸出向けに対応可能だ。Q-700は毎時500-700個の小ロット生産ができる。簡単なモジュール変更で複数のデザインのおプショントレイが組み立てられる」